

平成 26 年度事業報告書

研究所の創設者である大倉邦彦は、『大倉山論集』第 8 輯（昭和 35 年 7 月発行。30 周年記念号）において、次のように述べています。「科学文明のみが絶えず進歩して、一方、精神文化の方面はこのまま足踏みの状態を続けているならば、折角発達進歩した科学の力も人間に真の福祉を保障する訳には行かなくなるかも知れない。」。大倉邦彦のこの指摘は、現代社会にも共通する、極めて重い課題といわなければなりません。

公益財団法人移行後 3 年目となる平成 26 年度（以下「26 年度」という。）では、こうした課題認識のもとに策定した次の三つの柱で構成される事業計画に基づき、定款第 4 条に定める公益目的事業を着実に推進しました。

- ①精神文化に関する研究及びその成果の公開
- ②地域における歴史・文化の研究及びその普及
- ③附属図書館の運営及び図書資料の充実・整備

1 精神文化に関する研究及びその成果の公開(定款第 4 条第 1 項第 1 号)

(1) 精神文化の研究

精神文化の研究は、東西両洋における精神文化の科学的研究を行い、その成果を国民に提供することにより、文化の振興の原動力となる国民の知性及び動議の高揚を図っているものです。26 年度では、心豊かな国民生活の実現と文化の振興に資する次のような精神文化の研究及びその成果の普及活動に積極的に取り組みました。

ア 実用の学の研究

実用の学の研究は、実業家の実学観や文化事業・教育事業等の調査・研究や資料収集を進めているものです。26 年度は 25 年度に引き続き、大倉邦彦が開設した富士見幼稚園の教育理念の調査・研究を中心とした近代の幼児教育の研究に取り組み、研究所資料展において、その研究成果の一部を紹介しました（付属明細書 2 頁参照）。

併せて、近代日本で先進的な国際教育を推進した東亜同文書院の教育や理念についての研究を進めました。

イ 東西文化融合の研究

当財団は、定款に定めた目的を達成するために、東西両洋における精神文化の科学的研究を行っています。26 年度では、当財団の立地する横浜が東西文化融合の地であることに着目して、以下の研究を進めました。

(ア) 文芸作品に表れた近代化の研究

平成 26 年は、日本が世界へと門戸を開き、近代化へと歩み始めた嘉永 7 年の日米和親条約から 160 年という節目の年にあたります。そこで、平成 25 年度の研究テーマである「小説に見る近代化」をさらに発展させて文芸作品全般に対象を広げ、明治期の小説家が書いた小説や、近代西洋文明の入り口であった横浜を題材とした文芸作品などを取り上げて、異文化との交流

による日本人の精神の変化について研究を進めました。その研究成果の一部は、大倉山講演会や『大倉山論集』第61輯の特集で発表しました（付属明細書3頁参照）。

(イ) 近代化と宗教の研究

近代化と西洋文明の受容は、それまでの宗教の有り様を大きく変化させました。そこで、近代化と宗教、特にキリスト教に着目した研究を進めています。26年度では、聖書印刷で有名な福音印刷や、その経営者で横浜指路教会長老の村岡平吉について研究し、その研究成果の一部を、講演会や『大倉山論集』第61輯の特集、港北区役所発行の情報紙等で発表しました（付属明細書3頁参照）。

ウ 創設者及び研究所関連資料の研究・調査

精神文化についての科学的研究及びその普及活動を行う上で、研究の基礎となる資料を収集・整理・保存することは欠かせません。資料の収集・整理・保存を実践することにより、研究及びその普及活動を効率的かつ有効に進めていくことができます。

このような考え方に立って、創設者である大倉邦彦の思想や事績、研究所の創立から現在に至る沿革等の調査・研究、資料収集等を継続的に実施しています。

(ア) アナログ音源のデジタル化事業

26年度では25年度に引き続き、劣化が進行しているオープンリールテープとSPレコードのデジタル化に取り組みました。その結果、オープンリールテープ10本とSPレコード15枚をデジタル化することができました。

(イ) 「日本精神文化曼荼羅」の修復事業

附属図書館第1閲覧室に掲げている「日本精神文化曼荼羅」は、大倉邦彦の発案により、研究所設立の精神と活動理念を具象化したものです。完成から80年余が経過し、絹布に亀裂が生じたため、5月に破損箇所の修復を行いました。

(ウ) 名刺の整理とデータベース化

当財団では、創設者大倉邦彦や研究員が受領した各界関係者・著名人の名刺を多数所蔵しています。これらの名刺は、研究所と各界の関係を知るうえで貴重な資料ですが、これまで未整理のままでした。そこで、26年度から整理を開始し、約4,600点を整理し、27年度完成予定でデータベースへの登録を進めています。

(2) 精神文化研究成果の公開

精神文化研究成果の公開は、上記「(1) 精神文化の研究」等の研究成果を国民生活の向上充実に役立つように公開しているものです。26年度は、次に掲げた講演会等を実施しました。

ア 講演会等の開催

大倉山講演会は、横浜市大倉山記念館指定管理者との共催で4回、大倉山秋の芸術祭実行委員会との共催で1回開催しました（付属明細書1頁～2頁参照）。

公開講演会は、愛知大学との共催で1回、港北図書館との共催で4回開催しました（付属明細書2頁参照）。

イ 資料の展示

研究成果公開の一環として、研究所資料展を2回、その他の展示会を3回開催しました（付属明細書2頁～3頁参照）。

ウ 印刷物の編集及び発行

研究紀要『大倉山論集』第61輯を刊行しました（付属明細書3頁参照）。

新たに、英語版「研究所のしおり」を編集発行しました。その他に、「研究所のしおり」第2版、講演会チラシ、展示会チラシ、展示解説等を編集発行しました。

エ 電子情報の発信

当財団のホームページ等を活用し、研究成果や講演会、展示会等の情報を積極的に発信しました。また、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の活用として、ツイッターによる情報発信も行っています。

2 地域における歴史・文化の研究及びその普及(定款第4条第1項第2号)

(1) 連携事業

横浜市大倉山記念館指定管理者、愛知大学、港北図書館の3団体・機関と連携して、講演会を開催しました（再掲。付属明細書1頁～2頁参照）。

(2) 講師派遣

大豆戸菊名打ち水大作戦実行委員会等の19団体・機関からの依頼により、講演、授業、シンポジウム等に講師を派遣しました（付属明細書3頁～4頁参照）。

(3) 依頼原稿の執筆

港北区区民活動支援センター等の4団体・機関発行の情報紙等へ15本の原稿を執筆、掲載しました（付属明細書5頁参照）。

(4) 調査協力

『日本経済新聞』等の7新聞・雑誌・ウェブの、大倉精神文化研究所や大倉山記念館、港北区に関する記事執筆の調査に協力し、15記事が掲載されました（付属明細書5頁参照）。

(5) 見学案内

神奈川県建築士会中支部等の8団体・機関からの依頼により、大倉山記念館や周辺地域の見学案内を実施しました（付属明細書5頁～6頁参照）。

3 附属図書館の運営及び図書資料の充実・整備(定款第4条第1項第3号)

附属図書館は、哲学・宗教・歴史などの入門書から専門図書まで約10万冊を備えた精神文化の専門図書館です。原則として毎週火曜日から土曜日までの5日間、午前9時30分から午後4時30分まで無料で公開しています。26年度は新たに2,083冊の図書を収集整備し、延べ243日開館しました（付属明細書6頁参照）。

(1) 貴重コレクションの公開

貴重コレクションの書誌データを順次デジタル化し、OPACで公開すると共に、展示会や見学会

等を通して利用者へ積極的に広報しました。

(2) 図書館情報管理システムの本格稼働

利用者の利便性向上と業務効率の向上をねらいとして整備した、図書館情報管理システムを25年11月1日から稼働させました。その中で、62,885冊の書誌データを公開しました。さらに、25年度公開済みの書誌データも、その内容の充実に努めました。

ア 貴重コレクション和装本のデータ化継続

貴重コレクション和装本の内、大名榊原家文庫のデータ登録を進め、3,931冊の書誌データを作成しました。

イ 貴重コレクション洋装本のデータ化

貴重コレクション洋装本の内、タゴール文庫和書、水野梅暁寄贈書、菅礼之助寄贈書、今泉定助寄贈書等5コレクションのデータ入力を終え、大倉邦彦旧蔵文庫及び旧制高等学校文庫の資料のデータ化に着手しました。

ウ バーコード貼付

閉架書庫内の資料を貸し出しできるように、30年度までの5箇年計画でバーコード貼付を進めています。26年度では5,000冊貼付しました。

(3) 全国に開かれた図書館としてのサービスの充実

ア 研修参加

ブレインテックユーザー研究会等の各種団体主催による研修への参加、他館の視察や交流、各種情報の収集を積極的に行うことによりスキルアップを図り、レファレンスサービスをはじめとする情報提供機能の充実に取り組みました。

イ 閲覧室拡充

3階の旧第2会議室を、新たに附属図書館第2閲覧室として整備し、5月29日より学習・研究の場として利用を開始しました。その他、公開書庫床材の張り替え等環境整備に努めました。

(4) 図書館のPR

ア ホームページの活用

ホームページやツイッターを活用した図書館のPR活動や、日本最大の図書館検索サイト「カーリル」への情報登録等を行い、利用者拡大を図りました。

イ 所蔵資料の紹介展示

資料展を3回、ミニ展示を5回、大倉山講演会関連資料展示を3回開催しました（付属明細書7頁参照）。

その他、雑誌への原稿執筆、館内見学の受け入れ、大倉山観梅会に伴う臨時開館、リーフレット改訂、ブックカバー作りのワークショップ、リユース文庫の開設等を行い、広報に努めました。

(5) 修理ボランティアの養成

中性紙を利用した箱・封筒類を作成するボランティアを養成するための講習会を9月に開催しました。その修了者によるボランティア活動として、10月から貴重コレクション用の箱作成を開始しました。